

2025年度(令和7年度)事業報告書
(2025年(令和7年)4月1日~2026年(令和8年)3月31日)

認定特定非営利活動法人こまちぷらす

1. 事業の活動方針

2025年度は、2つのカフェを拠点とした「子育て世帯とまちをつなげる取り組み」を中心に、産前産後の家庭にまちからのお祝いと応援を届ける「ウェルカムベビープロジェクト」、カフェの夜営業や保育園と連携したお惣菜事業等、働く世帯へのアウトリーチ的な事業等を進めながら、不登校・引きこもりの子を持つ親や、子ども達自身がこまちカフェで安心して過ごせる場づくりを、更に深めてきた。

特にその中で、産前産後や未就学児のみならず学齢期の子どもたちが、まちの様々な大人達に見守られながら成長していく環境づくりを行う素地を作ることができた。具体的には、近隣の商店会や企業等と連携し、主に学齢期の子どもたちの学びや経験の機会を作ったことが挙げられる。

また、2023年度から日本の各地域で現地の団体との連携の中で「心地よい関わりの生まれるカフェ型居場所」の講座を開催する等、全国各地で「自身も居場所をつくりたい」と考える方々が自身の地域に仲間や応援してくれる人の存在を得ながらチャレンジができる機会づくりを促進してきた。2025年度は、これまで13期にわたり開催してきた「居場所作り学びあい講座」や全国各地の受講生たちが、その後の実践で感じた学びや課題を共有できるオンラインコミュニティ「こまち IBASHO 研究会」を立ち上げ運営を開始した。

<事業内容>

I. 子育て情報の提供

1. 地域子育てカレンダー事業

- ・内容：【概要】地域の子育て情報を、地域子育て支援拠点との連携により収集し、ネット上に毎月100~200件ほどデータベース化しネット検索できるよう掲載。地域別、テーマ別、キーワード毎に検索ができるようになっている。自宅からなかなか出られない出産直後や転入など、地域情報にたどりつき辛い子育て当事者に向けて、地域の施設が発行しているチラシ情報をネット上で検索できる状態にすることで、孤立の解消につなげることが狙い。拠点運営法人より受託、実施。

【今年度の成果】作業のしやすさの向上を目指し、チラシをデータで管理する仕組みを整えた。これにより、これにより、月ごとに大きく変動する入力を調整しつつ、個々のライフステージの変化や日常生活に変化があっても依頼量を調整することで無理なく続けられる環境をつくった。また、連絡手段をLINEからオンラインのコミュニケーションツールへ移行したことで、依頼がよりスムーズになっただけでなく、チーム全体の動きがオープンになり、こまちパートナー同士でのやり取りが増え、お互いに聞きやすい雰囲気にもなった。入力の負担軽減を目的に、施設リストの作成やマニュアル整備を進める一方で、書き方の自由度を残すことでモチベーションの維持にも配慮した。その結果、子育て中や育休中、仕事と両立している方など、いろいろな属性の計13名(こまちパートナー9名、スタッフ4名)が継続して関わる体制ができ、今年度の「地域こそだてカレンダー」の閲覧数は約13,500PVを記録した。またリアルでの交流として、こまちカフェでの入力作業日を1日、ランチ会を1回開催した。ふだん顔を合わせる機会の少ないパートナーさん、スタッフがコミュニケーションをとり貴重な機会となった。

- ・日時:通年
- ・場所:神奈川県横浜市戸塚区内
- ・従事者人員:13名
- ・受益対象者:区内外の母子中心に、のべ13,500名程度
- ・支出額:206,047円

2. とつかの子育て応援ルームとことこ情報スペース運営事業

- ・内容：【概要】年間約1万人以上が来場する、戸塚区役所内にある子育て情報発信及び託児機能をもつ施設に於

いて、情報発信スペースの運営を拠点運営法人より受託、実施。1人の情報コンシェルジュが常駐し、月間100件ほどの相談を傾聴、区役所の窓口含め必要な支援や情報に案内している。ベビーカーレンタルや体重計の貸し出し等も実施している。

【今年度の成果】今年度は、地域資源としてとことこ来場者に紹介することの多い「しゃべり場・遊び場・ほっとタイム」の会場に情報コンシェルジュが足を運んで取材した。今まではチラシのみのご案内だったが実際に見学したことにより、施設の雰囲気、利用者の年齢、支援者と保護者の関わり方など具体的に理解し、来所者に伝えることができた。大型壁面の掲示では、毎年10月の保育所申請時期頃から、来所者が育休復帰後に子育てと仕事を両立できるか不安だ、と話される方が多くなることから、昨年発行された子育て情報紙ゆめ「子育て家庭のリアルなタイムスケジュール」を元に、家族構成や勤務形態の違う5組の家庭の1日のスケジュールを掲示した。さらにとことこオリジナルとして、「我が家のコツ教えて!」と題し、来所者に実際に育児や家事で工夫していることを付箋に書いてもらう「参加型の掲示」にしたことにより来所者同士の情報共有の場として活用できた。情報発信として区政推進課のエックス担当者話し合い、区が発信するエックスの投稿回数を増やしとことこの周知をさらに強めた。その結果、投稿を見てベビーカーレンタルや保育園・幼稚園ファイルの利用者が増えた。季節の壁面掲示では、季節に合わせて地域に点在するイベント情報を集約するとともに、どの情報が掲示されているか一目でわかるように装飾を託児スタッフと協力して作成し、とことこらしく装飾でも楽しんでもらえるように工夫をした。特にイチゴ狩りの掲示では写真を撮る来所者が多くいた。地域子育て連絡会やつどいの広場連絡会、赤ちゃん訪問員連絡会に出席、地域の子育て支援者と情報交換をすることで、保護者のニーズや実態を知る機会も得ることができた。また、相談ではベビーカーレンタルやミルクのお湯の利用時の何気ない会話のやり取りから、相談につながるケースも多くありその相談件数は1007件となった。年度後半では、戸塚消防署によるAED講習を受講し、いざと言う時に迷わず行動でき安心して利用できる環境作りの重要性を学んだ。来所者がどんなときも安心して気楽に訪ねられる雰囲気を大切にしよう日々心がけた。

- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町16-17
- ・従事者人員：4名
- ・受益対象者：のべ10300人程度
- ・支出額：1,863,812円



↑区役所3階



↑情報スペース

II. 子育てをしている人、子ども、地域の人が思いを言語化し、つながりをサポートする場づくり

1. こまちカフェ

- ・内容：【概要】日祝日を除く毎日（月曜日～土曜日）戸塚駅から徒歩7分のところで「こまちカフェ」という居場所を運営。飲食の提供、雑貨の販売、イベントを通して子育て中の母親のリフレッシュや外出動機の創出、仲間づくりのきっかけの創出、気持ちを言語化できる機会づくり、新たな情報や視点との出会いの場の創出を行っている。当事者や支援者・企業・行政等様々な主体の人の「ニーズ」や「できること」

が集まり、コーディネーションをしながら活気のある場がつけられている。この部門では主に、飲食の提供を通じた豊かな居場所づくりをしている。

【今年度の成果】

主に子育て世代や地域の方々が安心して過ごせるカフェ運営に努め、ランチやドリンクの新メニュー開発により、常に新鮮な体験を提供した。運営面ではスタッフとパートナーの連携を深め、柔軟な体制を構築。これにより個々のスキル向上と運営の安定化を実現した。また、今年度は多様な主体の参画を重点的に推進した。

・利用者の参画：SNSを活用したパーティープランの周知や季節行事（ハロウィン等）により、利用者が主体的に場を楽しむ機会を創出。「お誕生日ぶちばーてぃー」に加え「ハーフバースデイ」を新設、より多くの親子が地域とつながる接点を増やした。

・こまちパートナー/学生の活躍：運営を支えるパートナー(こまちパートナー)との協働に加え、学生やボランティアが参加できる機会を積極的に創出。外部出店のお弁当販売や出張料理においても、地域の方々と共に活動する場を広げ、カフェの枠を超えたコミュニティ形成を図った。さらに、スタッフ発案の「1歳からのゆるっとママカフェ」や「絵本の読み聞かせ」は、親子がゆるやかにつながる場として定着。2026年4月にはリニューアルオープンを予定。これまでの多様な参加の形をより強固なものにするための準備も進めている。



- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：15名
- ・受益対象者：区内外の母子中心に、のべ6534名程度
- ・支出額：13,264,474円

2. こよりどうカフェ

- ・内容：【概要】2022年12月に「こまちカフェ」姉妹店として、善了寺境内に「こよりどうカフェ」をオープン。こまちカフェ同様に、子育て中の方々が気軽に利用できるカフェとしての運営をすると共に、お寺の境内であることや敷地内に高齢者の介護施設があること等の立地条件も活かし、多世代が集える場となることを目指している。利用者のみならず、運営に携わるこまちパートナーも年齢や障がいの有無を問わず様々な方が関われる場として運営。祝日を除く毎日(日曜日～月曜日)、居場所を運営しながら、近隣の保育園と連携しお惣菜を園に届ける取り組みや、障がいのある方の就労移行支援事業所との連携も進める。また、お惣菜のテイクアウトにも力を入れ、居場所に実際に足を運んで過ごすことが難しい方々との接点を作ることも取り組む。

【今年度の成果】

スタッフ一人ひとりの個性を活かしたアイデアを事業の核に据え、地域に開かれた活動を展開した。こまちパートナーの方々が継続的にもスポット的にも関わりやすい環境を整えたことで、多様な主体が共創する組織運営を推進することができた。

近隣5園の保育園との連携を深め、惣菜配達に加え、降園時間に合わせた出張販売を定期開催し、また

夜営業の「terabaru」では保育園招待日を設け、保護者の家事負担軽減と子育て層の交流の場を創出した。また、地域企業や商店会からの大口注文への対応も行った。定休日のスペース開放を通じ、「食」と「空間」の両面から地域の方のヨリドコロとなるよう努めた。

また、今年度は特に、子どもたちが地域に親しむきっかけ作りにも注力した。善了寺からのご寄付により、teracoya を実施、夏の花火大会やすいか割り、和菓子の会といった季節行事を通じ、多世代が交流する機会を創出。また、寄付により導入したかき氷機を活用し、夏休みに子どもたちが気軽に立ち寄れる仕掛けを作ったことで、新たな来店のかき氷機を数多く生み出すことができた。

地域の専門技能を持つ講師を招く「とつかの匠」シリーズでは、脚本家やアスリートなど第一線で活躍する方々と共に、世代を超えた新しいコミュニティの形を実現。「本」「映画」「音楽」といった個人の関心を入り口とした定例活動も充実し、善了寺本堂でのライブイベントなど、文化的な交流の幅も大きく広がった。

また、商店街イベント「キャンドルナイト」や「こんびら市」に積極的に参加。就労移行支援事業所との連携においても、新たに「LITALICO ワークス」をパートナーに迎え、多様な人々が共に働き、関わり合える社会貢献機能の一層の深化を図った一年となった。



- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区矢部町
- ・従事者人員：20名
- ・受益対象者：区内外の母子中心に、のべ 9730 名程度
- ・支出額：19,423,767 円

3. お菓子部門

- ・内容：【概要】「こまちカフェ」内のお菓子工房において、主にクッキーやケーキなどの焼き菓子を製造し、「こまちカフェ」「こよりどうカフェ」両店舗の店頭のほか、オンラインショップや外部イベント等に販売。地域の幼稚園・保育園や企業・団体からの受注にも対応する。

小麦・卵・乳製品を使わず、アレルギーのある方もない方も一緒に食べることでできる「心とからだにやさしいお菓子」が「気持ちを伝える」手段のひとつとなるよう、お客様にお届けする。

カフェへの来店動機を作るとともに、カフェに足を運ばない方にも配送を通じてつながる機会を創出する。製造工程や作業を分担したり、イベント販売に参加したりすることで、こまちパートナーやインターンの方、地域の方など多くの方が様々な形で関わりやすい場となるよう取り組む。

【今年度の成果】

こまちカフェ、こよりどうカフェ両店舗の店頭販売に加え、「大切な人への贈り物展」や「戸塚夏まつり」などこまちカフェでのイベント参加、「とつかストリートライブ」「戸塚ふれあい区民祭り」「戸塚ものづくり自慢展」など地域のイベントでの出店販売を行い、こまちのお菓子を多くの方に知っても

らう機会を作ることができた。昨年に引き続き、横浜高島屋で開催された「LOVE YOKOHAMA」出店のほか、地域の企業様からの大口の受注などに対し、綿密な作業計画や製造工程の効率化、スタッフのスキル向上、こまちパートナーとの連携などにより、これまでにない規模の菓子製造が可能となった。また、お名前・団体名やメッセージ入りのクッキー、動植物やスポーツなどの様々なモチーフの組み合わせることで、お客様のご希望に丁寧に対応するよう努めた。クッキーボトルや紙パッケージなど資材も工夫し、提供できる商品のバリエーションも増やすことができた。

毎月のクッキー缶「Tamatebako」をはじめ、母の日・父の日、「ありがとう・おめでとう」のミニ缶など、季節や行事に合わせた様々な焼き菓子をオンラインショップで販売、カフェに足を運べない遠方の方にもお届けすることができた。お誕生日やクリスマスのケーキ、季節感の感じられるデザートプレートを開発・提供するほか、「パフェ教室」「こどもとおとなの学校 スイーツコース」では、参加者の思いを大切にしながら一緒にメニューを開発し、マルシェで米粉のカップケーキを販売。お菓子作りがこどもたちの体験を広げ、地域の活動につながる新しい価値を創出することができた。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：4名
- ・受益対象者：区内外の一般市民のべ2,111名程度
- ・支出額：4,378,296円



↑ クラファンリターン「こまちのビジョン2030 クッキー缶」



↑ 「2025 アニバーサリープレート」



↑ 「こどもとおとなの学校 スイーツコース」米粉カップケーキ



↑ 新たに開発・販売したクッキーボトル

4. 参加のデザイン

- ・内容：【概要】飲食やイベントなどをきっかけに訪れた方々が、「互いに関心を持つ」や「自分の思いを語り合う」といったゆるやかな入口からスタートし、自身の「やってみたい」を見つけ、やがて「地域課題や他者のニーズと掛け合わせることで自分らしい参加と活躍のできる機会をつくり出す取り組みをしている。

【今年度の成果】

今年度は、こまちパートナー登録会の担当スタッフを増やし、体制を強化した。その結果、34名が新たに登録し累計登録数は405名となった。店内では見守りの他チラシ折など日々のカフェの日常を支えていただいた。今年度は特に商店会や地域のイベント出店やお菓子の外部出店など、店外でもお力添えいただく場面が多かった。参加のご案内はパートナー公式LINEにて部門の担当スタッフが直接積極的に投げかけを行い参加の機会を創出した。

また、同一メンバーで半年間交流する「パートナーぷらす交流会担当者が新しくなり、2期開催で計14名が参加した。スタッフと共に学びや交流を深め、安心して話せる場と関係性を育んだ。その結果、交流会が終わっても参加者同士が自主的に集り、継続的に交流する機会が生まれた。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：5名
- ・受益対象者：乳幼児や学齢期の子どもを育てる親、地域の方、商店、企業、支援者等 のべ100名程度
- ・支出額：114,889円

III. 社会から孤立しがちな当事者・支援する人の学びあい事業

1. 「でこぼこの会」（発達障がいをもつ子どもの親を対象に情報発信・イベント実施）

- ・内容：【概要】毎月1回お子さんの発達に不安を持つ親・支援者・当事者の方が集まり、お話しと、依頼した講師による勉強会を交互に開催。

【今年度の成果】2025年度もお話しと勉強会を交互に開催。毎年恒例の公認心理師による勉強会や、発達障がいをもつのお子さんのための保護者向け算数教室他、こまちカフェとこよりどうカフェでランチ交流会を開催した。前年度に開催した「就労とお金について」の勉強会をより分かりやすくした「初心者向けの勉強会」を開催。お子さんの将来への不安が少しでも軽くなるよう、発達障がいのあるお子さんにもいろいろな選択肢やサポートがある事をお伝えした。また、戸塚区の障害福祉マップを使って実際に歩いて福祉施設の場所を確認したり、福祉施設の見学をしたりもした。通年で戸塚区内で親子支援をしているこまちパートナー団体の集まり「ポンテ」のミーティングにも参加し、各団体の活動報告のほか、地域の情報などを共有した。

- ・日時：4月11日、5月2日、6月6日、7月4日、8月1日、9月5日、10月3日、11月7日、12月5日、1月9日、2月6日、3月6日
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：3名
- ・受益対象者：区内外の母子中心に、のべ78名
- ・支出額：127,382円



↑就労について初心者向けの勉強会



↑福祉マップを使ってのイベントで近隣の事業所を見学

2. ケアラーズカフェ「えんがわ」

- ・内容：【概要】子育てと介護といったダブルケアの方を対象に、思いを話し合う機会や、介護や認知症等について理解をすすめる機会となる場を開催。
【今年度の成果】子育て世代が直面する親の介護について、必要な情報に出会えることや自身の思いを話し合える場とすること、「子育ても介護も一人で抱えない」「介護者が自分自身を大切にする」ことを目指し活動した。2025年度の新企画として、行政書士の方をゲストに迎えた勉強会や、介護にまつわるおすすめの本を共有する会を設けた。
- ・日時：4月28日、5月28日、6月23日、7月16日、8月8日、10月31日、11月17日、11月26日、1月30日、2月12日
計10回実施
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：3名
- ・受益対象者：子育て中の方、介護中の方、支援者等、のべ27名
- ・支出額：41,775円



3. 「～不登校・ひきこもりの親ができること～ほっとひと息金曜日」

(不登校・ひきこもり学齢期児童の家族向け事業)

- ・内容：【概要】月1回金曜日午前または土曜日午後に、不登校ひきこもり児童・生徒(学齢期)の家族の方がお話をする場を開催。
【今年度の成果】事業の立ち上げ8年目となった2025年度も、引き続き当事者同士がそれぞれの状況や思いを話すことで「自分だけではない」ということを感じたり、情報を得たりすることで、子どもを取り巻く大人が自信と元気を取り戻すことができるよう努めた。勉強会では、不登校経験をした親子の話を聞いていただき、将来の不安を和らげていただくことができた。スクールカウンセラーの先生をお迎えしてのワークも親御さんに好評だった。2020年に開設した、会の参加者だけが参加できるオープンチャットは、月1回の会では補えない情報提供や、気持ちを吐露し共感し支えあえる場となっている。こまちパートナーや不登校経験の子を持つ先輩お母さんたちがこまちパートナーとして活動を支えてくださった。「はまおやネット」という横浜市内で親の会を主催する支援団体のネットワークの場や、ポンテという区内のネットワークの会にも参加し情報交換を続けている。ご寄付をいただいた本の貸し出しを目的としてスタートした「水曜日の本だな」を毎週水曜日に開催。誰かに気持ちを話したくなった時に、ふらっとカフェに立ち寄っていただく機会となっている。

- ・日時：4月25日、5月23日、6月28日、7月25日、8月22日、9月27日、10月24日、11月28日、12月13日、1月25日、2月27日、3月28日
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：2名
- ・受益対象者：不登校児童の親、支援者など、のべ85名
- ・支出額：109,765円

4. 「ただい間のおうち」（不登校・ひきこもり・生きづらさを感じている学齢期児童・生徒の家族向け事業）

- ・内容：【概要】月1回金曜日の夜に、不登校・ひきこもり・生きづらさを感じている児童・生徒(学齢期)の親子が外に出て家族以外の第三者と交流できる場を提供。
【今年度の成果】不登校・生きづらさを抱える子どもたちが、何をしても何もしなくても良い、自分らしくいられる場所の提供を目指し活動している。今年度もおにぎり味噌汁と味噌玉を利用した味噌汁を提供。食を囲んで、心地の良い話が弾む場となっている。参加を強制することはないが、毎月テーマを決めたミニイベントを開催し。お子さんをどう誘っていいかわからない親御さんにとってはお子さんの興味に合わせて声掛けができる機会となったり、何をしてもいいかわからない子にとっても参加のきっかけになったりした。何かを一緒にするという通して会話が生まれていた。また、主催者と共に音楽を楽しむ「つむ音」イベントを引き続き共催することができた。回を重ねてきたので、参加しているお子さん同士のつながりも生まれてきた。高校生・大学生こまちパートナー、こまちパートナー、有志の方、スタッフなど多くの方が活動に関わってくださった。
- ・日時：4月18日、5月16日、6月20日、7月18日、8月9日、8月29日、9月19日、10月17日、11月21日、12月19日、1月16日、2月20日、3月13日
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：4名
- ・受益対象者：不登校児童の親、支援者など、のべ145名
- ・支出額：158,136円

IV. 社会とつながりたい人が社会で活躍できる場・貢献の場を見出すためのチャレンジ事業

1. 特技を活かし、地域に貢献を考える子育て中の母親に対するサポート事業

- ・内容：【概要】こまちカフェ・こよりどうカフェにて、イベントスペース・カフェスペースの貸出を通して起業支援や情報発信支援を実施。
【今年度の成果】
こまちカフェ・こよりどうカフェで、ゆるやかに人と人がつながることのできる場として、イベントを開催、また特技や資格を活かしてチャレンジする機会としてレンタルスペースの貸出も行った。
- ・こまちカフェ：定期契約15名を含め、のべ34名の方にご契約いただき、子育て講座やおしゃべり会、ヨガなど体を動かす講座、手形アートや編み物などの手作りワークショップ、整体施術やする講座、親子遊びや撮影会、コンサートなど、年間約350件の多種多様なイベントが開催された。また、イベント主催者様のご協力を得ながら、小学生以上のお子さんが参加できるイベントを約20件開催した（その他、長期休暇中のイベントについては、ご賛同いただいた主催者様に、「小中学生」のお子さんもイベント対象者として含めていただいた）。
- ・こよりどうカフェ：新たな問い合わせも増え、地域で活動するママや事業者の方などの利用があった。ほぼ毎月開催いただく方も2名。のべ20名の方にご契約いただき、ベビーヨガや子育てに関する講座、おしゃべり会、食を通したワークショップ、整体施術や展示会など、年間約40件の多種多様なイベントが開催された。
- ・全体：両カフェのチラシは、約1200部をこまちパートナーの協力も得て、戸塚区内を中心に約50か所の施設、店舗に配架を行った。両カフェともにSNSを活用して、様々な媒体からより多くの方への情報発信・告知を行った。2025年度は初めて、3月と12月にイベント主催者が集まる契約者交流会を開

催し、それぞれの活動や思いを共有して情報や意見を交換する機会となり、横のつながりを作ることができた。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：6名
- ・受益対象者：起業、教室開催を考えている方及び一般市民等、のべ2,200名程度（オンライン参加者を除く）
- ・支出額：1,726,036円



↑こまちカフェ 親子イベント



↑契約者交流会

2. 子育て中の母が特技を活かし生きがい及び仲間づくりのために作成した飲食物・手づくり品の販売

- ・内容：【概要】こまちカフェ、こよりどうカフェ内スペースにて、子育て中の方を中心とした市民がつくった手づくり雑貨を販売。地域の方の外出動機の創出につながり、また、子育て中の方や事情により外出できない方の得意が生きる場づくりにもつながっている。0か1ではない働き方(自宅にしながら働ける一つのスタイル)の提案の場にもなっている。

【今年度の成果】

以前から契約者の希望があった「期間限定の特別展示販売」イベントを、6月に初めて開催した。2週間のみ、テーマを設定しそれに合う作品を展示して販売を行い、こまちカフェの周年行事と連携して多くの方の来店動機になった。

その他に9月・10月・12月・3月には店内を貸切りテーマを設けたハンドメイド作品の販売会を実施。秋は2週連続の開催となったにもかかわらずそれぞれに10名以上の出店参加があった。日曜開催ということもあり、普段とは違うお客様のご来店や、このイベントで初めてこまちカフェに来店された方も多かった。また、これまでスタッフが行ってきた前日の展示準備や当日開催後の撤収作業も参加者にお手伝いとして参加してもらい、より「自分たちでつくるイベント」と感じてもらえるような運営を行った。こよりどうカフェでの常設展示販売では、こまちカフェとは異なる内装に魅力を感じた方が複数名希望して作品を販売した。

また、契約者の方がより気軽に来店できる雰囲気を作るため、2025年度春から新たに毎月第4火曜日を「作家さんの日」として設定し、契約者の方へ周知を行った。これにより毎月10名ほどの方が「他の契約者と話せる場所」として来店し、情報交換や会話を楽しむ様子が見られた。これとは別に交流会も設けて、こまちカフェ側からの情報共有やイベント運営・普段の販売についての意見交換を行い、契約者同士/こまちカフェと契約者のそれぞれの意思疎通がはかれるような運営を行った。

さらに2025年度はSNSにも力を入れて発信を行い、県外からのお問合せや購入のご連絡が増加した。遠方にお住まいの方や家庭の事情により外出が難しい方が、「スマホひとつでお店とつながり、買い物や会話を楽める」ツールとしてSNSを利用しているのを感じている。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町、矢部町
- ・従事者人員：2名
- ・受益対象者：手づくり小物を地域でつくる方及び一般市民等、のべ1,000名程度

・支出額：937,712 円



↑ミモザテーマのハンドメイド販売会

↑月1回開催の「作家さんの日」

↑2週間の期間限定特別展示

V.多様な主体が互いに連携・協働し、コミュニティの活性化を推進するためのコーディネート事業

1. ウェルカムベビープロジェクト

- ・内容：【概要】「まち全体で赤ちゃんの誕生をお祝いし子育てを応援する社会」を目指し、出産祝いを地域の人々や企業商店とつくり、届ける事業を実施。2016年にヤマト運輸株式会社神奈川主管支店との協働で立ち上げ、2018年から横浜市鶴見区、2020年から千葉県松戸市でも取り組みが開始。2022年には茅ヶ崎市、2025年には川崎市川崎区でも支部が立ち上げられた。横浜市こども青少年局後援事業。出産祝いには選考会にて4人の選考委員により認定されたプレゼントが入っており、申し込みがある世帯へ無料でお贈りしている(選考会実施は横浜市戸塚区・鶴見区)。このプロジェクトは民間財源(協賛金や寄付、自主事業収入)を主として運営しており、行政と連携し実施している。住民や企業商店等様々な人が子育てに関わるきっかけとなるよう設計し、その関わりと連携により新たな社会インフラ(子育てが豊かになっていくようなコト・モノ・サービス・制度を生み出していくことも目指している。

【今年度の成果】

認定NPO法人こまちぷらすが運営する戸塚支部では650人の赤ちゃんに出産祝いを贈ることができた。

〔戸塚支部〕

○出産祝い部門

2025年度出産祝いの発送数は650個となり、参加企業団体数14社であった。まちの人からの出産祝いである「背守り」を縫う「とつか背守り会」を地域子育て支援拠点にて年12回実施、のべ136人が参加。地域の高齢者、子育て中の方、企業の方等様々な方が参加して下さった。その他、商業施設のイベント、高齢者施設等でも利用者のレクリエーションの一環として、作成いただいた。2025年度は新たに「巾着おくりプロジェクト」がスタート。手芸が得意な人だけでなく、地域の方、出産祝いを受けとった方、関わってみたいと思っている方に気軽に楽しく参加してもらえたらと企画。2026年度の出産祝いに加わる。「巾着おくりプロジェクト」でも、出産祝いを受けとった方が贈る側になり、家庭で眠っている資材がプレゼントとして活用される、そんな“めぐり”や“循環”をめざす。

○産前・産後部門

産前産後の母親の交流の場として、こまちカフェにて「ゆるっとママカフェ」を年11回実施。その他、企業や医療関係者等とのコラボレーションでも産前産後家庭を対象としたイベントを年9回実施した。また、2025年度は新たに「ママ・パパ会」をスタート。年4回決まったメンバーで集まり、子育て中の悩みや、趣味、今やってみたいことを参加者で話し、実現する会を開催した。参加メンバーは0歳から1歳児までのママ8組。年間を通して参加できるイベントにしたことで、子どもたちの成長をみなで喜ぶ姿がみられた。ハイハイレースや、年末お楽しみ会を実施。また、ウェルカムベビープロジェクトのキックオフイベントに赤ちゃんと共に参加し、子育て中のリアルな生活や様子を各々の言葉で支援いただいている企業や商店の皆さんにお伝えした。上記の産前産後家庭を対象としたイベントへ年間を通して、のべ84人参加。

○タウンサポーター/ナッピーデー

子連れでの外出を後押しし、まちの様々な場が「ウェルカムベビー」となることを目指し、子育てを応援、子連れでの来店を歓迎する商店等に「タウンサポーター」として登録していただいている。登録店舗にて、プロジェクトを支援する寄付ボックスを置いていただき、店舗と共に毎月7日を「ナッピーデー」として、子連れでの来店客への各種サービスをするイベントも実施。タウンサポーターは2026年3月現在17店舗、うち9店舗がナッピーデーに参加。ナッピーデーは2025年4月～2026年3月で12回開催した。

○ パートナー企業との連携

プロジェクトに参加する企業とコラボレーションしてのイベント実施や活動を行った。

- ・0歳～1歳のお口のケアについてのお話会：こども歯科クリニックと開催。
- ・DIY イベント：アパレル・雑貨企画生産販売企業と開催。
- ・赤ちゃん家庭と防災のお話会：粉・液体ミルク製造販売企業、家事代行サービス等実施企業と開催。

[本部]

○ 支部連携・展開

鶴見支部（事務局：NPO 法人つるみままっぶ）、松戸支部（事務局：NPO 法人 MamaCan）、茅ヶ崎支部（事務局：地域のお茶の間研究所さろんどて）への個別の振り返り及び、川崎区支部（事務局：一般社団法人大師 ONE 博）への出産祝い事業スタートへの伴走を行った。全支部での交流会を実施することで、プロジェクト実施における課題を見つけ、相談し合う時間を設けた。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市を中心に、全国
- ・従事者人員：6名
- ・受益対象者：戸塚区で生まれた赤ちゃん650人とそのご家族、一般市民等のべ300人。
- ・支出額：4,072,550円



↑ 出産祝い選考結果発表会（戸塚）



↑ 出産祝い（戸塚）



↑ ママ・パパ会（戸塚）



↑ 巾着をつくる会「巾着ちくちくの日」（戸塚）



↑ 背守りを縫う会「とつか背守り会」（戸塚）

2. 戸塚宿ほのぼの商和会事務局

- ・内容：【概要】119名の会員がいる戸塚の商店会の事務局をつとめる。一年を通じて戸塚宿ほのぼの商和会事務局を運営。「子どもも高齢者も障がいのある人も、誇りと居場所と出番を感じられる地域」を目指し、商店会としてできることを模索しながら活動している。

【今年度の成果】

2025年度は、毎月の定例会(年11回開催)に加え、理事会を2回開催した。情報発信としては会員向け

にほのぼの便りを毎月1通作成、定例会の議事録の共有、対外的にはInstagramや公式LINE、ホームページでの発信に力をいれた。商店会主催イベントとして、8月～1月にプレミアム電子商品券事業、7月にとつか夏まつり内「ほのぼの祭り」1月に「おもちつき大会」を開催。その他、戸塚駅周辺の店舗と行った「はしご酒ライブ」を開催し合計約47,500名の地域住民が参加した。また、SNSの媒体に触れる機会の少ない方向けに紙媒体の商店会マップを4000部再版した。これらの取り組みにより、来訪機会の創出や店舗利用の促進につながるとともに、商店会の魅力を発信する機会となった。また、会員同士の交流が深まり、商店会の一体感の醸成と活性化につながっている。

また、今年度は商店会協力のものこどもまち冒険を開催。道路を貸し切りファッションショーをしたり、商店会会員店舗を貸し切り店主と作戦会議や、焼きそばの提供、マルシェの準備を一緒に行うなど、こどもたちと商店会の店主を中心としたまちの大人たちとの出会いを創出した。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区
- ・従事者人員：3名
- ・受益対象者：119名
- ・支出額：1,469,605円



夏まつり出店の様子



はしご酒ライブの様子



おもちつきの様子



おもちつき集合写真

VI. 孤立しない社会をつくるためのまちづくり・啓発・提言事業

1. 講演やコラム発信等、起業への働きかけを実施

- ・内容：【概要】講演や研修、調査協力、機関誌寄稿等を通じた提言啓発を実施。

【今年度の成果】行政関係者、中間支援、市民団体の方、企業、学生等向けにこまちぶらすの活動やカフェでの実践等について話し、ビジョンの普及啓発に努めた。「カフェ型居場所の展開」として、他地域や他団体に向けたこまちカフェの運営についての実務講座を実施した。2025年度「こまち IBASHO 研究会」が本格始動し、様々な地域で活動する人のネットワークづくりに取り組んだ他、神奈川県からの委託での連続講座や、社会福祉協議会や信用金庫との共催での講座も実施した。また、新たな試みとして、年齢期のこどもたちの興味関心に応じた「遊び」の機会をこどもたちと作る「こどもまち冒険」も里山とこまちカフェ横の道路にて開催した。

- ・日時：通年
- ・実績（抜粋）

[主催講座・イベント]

- ・カフェ型居場所のはじめ方講座～飲食編～
- ・カフェ型居場所のはじめ方講座～手作り小物販売～
- ・カフェ型居場所のはじめ方講座～イベントスペース貸し出し～
- ・居場所づくり学びあい講座～心地よい関わりが生まれるカフェのつくりかた～オンライン通常版
- ・こどもまち冒険

[共催講座]

- ・想いをかたちにするわたしの活動デザイン講座

[講師派遣/講演会等]

- ・かながわ福祉大学校

- ・関東学院大学
- ・横浜市地域ケアプラザコーディネーター研修
- ・京急沿線子育て応援ネットワーク『Weavee』交流会
- ・横浜市共創ダイアログ

[その他 取材対応/調査協力/アドバイザー/おしゃべり会ファシリテーター等]

- ・かわさき市民公益活動助成金審査委員会
 - ・よこはま夢ファンド 基盤強化助成ファシリテーター
 - ・小学館アカデミーりょくえんとし保育園おしゃべり会
 - ・神戸大学との共同研究
- ・場所：神奈川県、松戸市、東広島市、オンライン対応等
 - ・従事者人員：5名
 - ・受益対象者：行政、団体や居場所運営者、育休中社員、子育て中の親、学生等およそ1300名程度
 - ・支出額：6,892,141円